

水族館記録—2015 年度

1. 研究・教育

4月7日

新井未来仁さん（東京大学院生）にオオアカヒトデ1個体を提供した。

5月8日

安居小学校（生徒8名、教諭3名）に飼育生物についての解説を行った。

5月9日

岡西政典研究員に、203号水槽（「刺胞動物門ヒドロ虫綱・花虫綱」）のニシキクモヒトデ10個体を提供した。

5月13日

美山中学校（生徒30名）に飼育生物についての解説を行った。

5月14日

三舞中学校（生徒8名、教諭4名）のバックヤード見学を指導した。

5月15日

西田宏紀教授と院生2人（大阪大学大学院理学研究科西田研究室）が研究用マボヤ約120個体を回収し蓄養を終了した。

5月16日

名古屋工業会（30名）に展示生物についての解説を行った。

5月28日

樟蔭中学校（生徒52名、教諭5名）のバックヤード見学を指導した。

6月4日

開智中学校3年生（生徒35名、教諭3名）のバックヤード見学を指導した。

6月5日

開智中学校2年生（生徒32名、教諭3名）のバックヤード見学を指導した。

6月17日-19日

東陽中学校（生徒1名）の職場体験を指導した。

7月8日

広大附属東雲中学校（生徒4名）のウツボに関する質問に対応した。

7月26日

奈良高校の実習用に、ベリルイソギンチャクなど5種9個体のイソギンチャクを一時的に提供した。

8月3日

上富田小学校4年生部会（6人）のバックヤード見学と生物集計体験を指導した。

10月13日-17日

博物館実習を行った。実習生は3名で、給餌、水槽掃除、生物採集などを指導した。

11月24日

和田小学校（生徒32名、教諭2名）のバックヤード見学を指導した。

12月1日

和歌山県エコティーチャー研修会（18人）の水族館見学を指導した。

12月16日

西田宏紀教授と院生2人（大阪大学大学院理学研究科西田研究室）が研究用マボヤ約750個体を搬入し、大型実験水槽（第3水槽棟作業室）を8.0-8.5℃に冷却して蓄養を行った（研究概要については本年報第21巻、8ページ参照）。

2016年3月2日

村上明男准教授（神戸大学）に、ソメンヤドカリ3個体を提供した。

3月3日

岡小学校（生徒16名、教諭3名）のバックヤード見学を指導した。

3月7日

南白浜小学校（生徒7名）のバックヤード見学を指導した。

2. 普及

3月25日-4月5日

「春休み解説ツアー」を、教員5人・飼育担当3人・研究員4人の計12人で実施した。10時45分から表側の展示水槽を、11時15分からバックヤードを案内・説明し（定員各10人）、表側106人、裏側101人が参加した。

3月25日-4月1日

「大水槽エサやり体験」を飼育担当3人で実施した。毎週月・火・水曜日の14時45分から約10分、101号水槽のエサやりを体験してもらった。参加者は39人。

4月2日

株式会社ドリームスタジオのウミウシに関する質問に対応した。

4月18日

「水族館の磯採集体験」（9:30-11:30）（和歌山県教育委員会主催「きのくに県民カレッジ」の連携講座）を行った。参加者は18名。

5月16日

「水族館の磯採集体験」（9:30-11:30）（和歌山県教育委員会主催「きのくに県民カレッジ」の連携講座）を行った。参加者は8名。

5月21日

アガサス（和歌山タウン情報誌）の取材に対応した。

5月29日

鳥取県境港管理組合（4人）の視察に対応した。

6月13日

「水族館の磯採集体験」（9:30-11:30）（和歌山県教育委員会主催「きのくに県民カレッジ」の連携講座）を行った。参加者は7名。

7月18日-8月31日

「夏休み解説ツアー」を、教員5人・飼育担当

3人・研究員6人の計14人で実施した。10時45分から表側の展示水槽を、11時15分からバックヤードを案内・説明し（定員各10人）、表側370人、裏側403人が参加した。

7月20日-8月31日

「大水槽エサやり体験」を飼育担当3人で実施した。毎週月・火・水曜日の14時45分から約10分、101号水槽のエサやりを体験してもらった。参加者は169人。

7月20日

紀伊民報の釣り魚に関する取材に対応した。

8月3日

NHKのバックヤードツアーに関する取材に対応した。

8月17日

株式会社京阪神エルマガジンのバックヤードツアーに関する取材に対応した。

8月25日

和歌山県教育委員会主催の教育支援メニューフェアに参加し、標本・パネルなどを使い水族館についての説明を行った。

10月1日

「2015年和歌山きのくに国体」開催に伴い、記念ポストカードを無料配布した。

10月17日

「水族館の飼育体験」（13:30-15:30）（和歌山県教育委員会主催「きのくに県民カレッジ」の連携講座）を行った。参加者は9名。

11月17日、20日、12月7日

紀伊民報・産経新聞・毎日新聞・NHKの、ミナミヅウリエビに関する取材に対応した。

11月26日

紀伊民報の正月特集用クイズに関する取材に対応した。

11月27日

白浜町観光課の白浜町要覧用写真撮影に対応した。

12月12日

「水族館の飼育体験」(13:30-15:30)(和歌山県教育委員会主催「きのくに県民カレッジ」の連携講座)を行った。参加者は18名。

12月22日

紀伊民報のウミテングに関する取材に対応した。

12月23日-2016年1月11日

「冬休み解説ツアー」を、教員4人・飼育担当3人・研究員5人の計12人で実施した。10時45分から表側の展示水槽を、11時15分からバックヤードを案内・説明し(定員各10人)、表側138人、裏側150人が参加した。

2016年1月7日

紀伊民報のサナダヒモムシに関する取材に対応した。

1月9日

紀伊民報の冬休み解説ツアーに関する取材に対応した。

2月12日

株式会社釣りビジョンの取材に対応した。

2月13日

「水族館の飼育体験」(13:30-15:30)(和歌山県教育委員会主催「きのくに県民カレッジ」の連携講座)を行った。参加者は11名。

2月26日-27日

読売テレビ「マヨなか笑人」の取材に対応した。

3月24日

関西テレビのカスリハタと思われる大型ハタについての電話取材に対応した。

3月25日-4月7日

「春休み解説ツアー」を、教員5人・飼育担当3人・研究員5人の計13人で実施した。

3月27日

テレビ和歌山の春休み解説ツアーに関する取材に対応した。

3月28日

株式会社エトレの水族館およびイベントに関する取材に対応した。

紀伊民報の大水槽エサやり体験に関する取材に対応した。

3月31日

紀伊民報のホウボウ幼魚に関する取材に対応した。

3. 収集・飼育・展示・生物観察メモ

5月7日

408号水槽(「当館で育てたサンゴ礁魚類」)にタキベラ2尾を収容したところ、以前から収容していたタキベラ1尾から攻撃を受けたため、第4水槽予備水槽に戻した。

5月11日

丸長水産よりマアジ379尾を購入し、226号水槽(「群れをつくる小魚」)に収容した。

6月1日

228号水槽(「磯の生物」)に大量に発生した藻類を除去するため、水槽の水を抜き、高圧洗浄機で岩面を掃除した。

7月9日

303号水槽(「魚らしくない魚・紀南で珍しい無脊椎と魚」)で飼育していたハタ類に、眼球突出・充血と体表色異常が見られたので、予備水槽に収容し硫酸銅を投薬したが、7月11日に全滅した。

8月15日

413号水槽(「スズキ目フェダイ科・ハタ科・インダイ科」)で長期間飼育していたクエが転覆したため、第4水槽室予備水槽に収容した。その後も容体は回復しなかったため、8月20日に殺処分とした。

9月9日

413号水槽(「スズキ目フェダイ科・ハタ科・インダイ科」)で長期間飼育していたイシガキ

ダイが死亡した。

11月13日

本州ではほとんど採集されないミナミゾウリエビの展示を開始した。

4. 受贈

4月1日-7月2日

真鍋和功さん（白浜町）より、アメフラシ2個体（全長6cm、田辺湾）などを含む9種22個体。

4月4日

浦 禎介さん（白浜町）より、カサゴ1尾（全長20cm、塔島）。

5月3日

国吉 璃央さん（大阪府）より、ミスガイ1個体（全長3cm、黒潮台の磯）。

6月20日-9月15日

大江 富夫さん（白浜町）より、クリイロカメガイ50個体（全長1cm、三段壁）、アナハゼ1尾（全長12cm）。

6月23日-2016年1月4日

正木モーターズ（白浜町）より、カンコガイ1個体（全長12cm、シーサイドホテル前の浜）、ワモンダコ1個体（全長20cm、田辺湾）。

8月18日-10月6日

よし善（白浜町）より、カズラガイ1個体（全長8cm）、サツマアサリ1個体（全長4cm）、オオモンハタ1尾（全長15cm）。

10月25日

田名瀬 英明さん（白浜町）より、ナンヨウツバメウオ1尾（全長7cm、瀬戸港）。

10月29日

真鍋 豊守さん（白浜町）より、ヨウジウオ1尾（全長15cm、綱不知）とキメンガニ1個体（全長3cm、綱不知）。

12月16日

国本 進吾さん（白浜町）より、コバンザメ1尾（全長70cm、白浜沖）。

5. その他

5月7日-8日

山内洋紀技術職員と山本恒紀技術職員が、宮崎勝己講師が行った三崎臨海実験所での調査に参加した。

7月16日-17日

台風11号の接近に伴い暴風警報が発令されたため、臨時休館とした。

10月28日-30日

山内洋紀技術職員と山本恒紀技術職員が第42回国立大学法人臨海・臨湖実験所・センター技術職員研修会議に参加し、山本技術職員が研究実習船ヤンチナについて口頭発表を行った。

11月6日-12日

高架タンク内の電極が腐食し、水位の測定ができなくなったため、フロート式のセンサーに交換した。

11月9日

和歌山県環境生活部の職員から、南紀熊野ジオパークについての説明があった。

2016年2月4日

216号水槽のガラスに、コンクリート躯体の爆裂が原因と思われるひび割れが発生したので、ガラスを交換するとともに、水槽内部のFRP防水層を修理した。

3月15日

観覧通路床面の掃除およびワックスがけを行った。

3月23日

第2・3・4水槽室バックヤードの電話機を更新した。